

レーゲンスブルク大学（ドイツ）における日本語教育の実践

高邑真弓（2005年修了・修士6期）

1. レーゲンスブルク大学について

レーゲンスブルクはドイツの南、バイエルン州に位置し、2006年にユネスコ世界文化遺産に登録された広さ 80 k m²、人口約 13 万人の町です。1962年に建学されたレーゲンスブルク大学は町の南にキャンパスがあります。大学には 12 の学部、約 20 の学科があり、約 1 万 7 千人の学生が籍を置いています。現ローマ教皇であるベネディクト 16 世が教鞭を執っていたことでも知られており、2006年には大学を訪れ、講演を行ったそうです。



2. レーゲンスブルク大学における日本語教育

レーゲンスブルク大学には日本学 (Japanologie) はありませんが、全学対象の日本語教育が行われています。私は 2006 年の冬学期 (WS06/07) から専任講師として大学内の言語コミュニケーションセンター (Zentrum für Sprache und Kommunikation=ZSK) にて日本語を教えています。レーゲンスブルク大学での日本語教育は 1989 年の夏学期から始まったそうですから、2009 年でちょうど 20 年経ったことになります。

私の前々任者までは研究などの理由でレーゲンスブルク大学に短期で在籍していた日本人大学教授が担当していたそうで、日本語教育の専門知識を持った教師はいなかったと聞いています。

レーゲンスブルク大学は金沢大学、名古屋大学 (法学専攻者のみ)、また 2009 年から東北大学 (物理専攻者のみ) と大学間交換協定を結んでおり、毎年 2 名ほど主に金沢大学に 1 年間留学しています。2008 年には初めてゼロから教えた学生 3 人を送り出し、2010 年 3 月現在も 2 人の学生が金沢大学へ留学しています。

3. 担当授業について

大学には日本語教師は私一人しかおらず、全学対象の日本語教育を全て一人で担当しています。学期中は 90 分 1 コマの授業を 10 コマ受け持ち、それに加え、春と夏の長期休みに集中講義を 1 コマずつ担当しています。

メインの授業は UNICert® (ユニツェート) というシステムで行われる授業です。UNICert® は各大学で同じレベルの授業をしているという前提のもとに、自分の大学の語学修了証が他

大学でも認められるシステムです。日本語に関してはまだレーゲンスブルク大学を含め 6 大学しか実施されていませんが、レーゲンスブルク大学では私が赴任した 2006 年冬学期からドイツ語を除く 17 言語のうち、英語、フランス語、スペイン語、イタリア語、日本語の 5 言語が UNICert®を始めました。アジア言語は他に中国語、韓国語がありますが、UNICert®のコースがあるのは日本語だけです。UNICert® I はコース 1 から 3 までレベルの違う 3 クラスに分かれ、UNICert® II はコース 1 とコース 2 の 2 クラスに分かれています。

UNICert®の授業は定員 25 名までと決められており、また全授業の 80%以上の出席が義務付けられています。学期末には Klausur と呼ばれる学期末テストが行われ、筆記のほかに聴解、口頭の試験も行っています。

各クラスの学生数は学期によって違いますが、UNICert®I コース 1 が 25 名前後、コース 2 が 15 人前後、コース 3 が 10 人弱、UNICert®II コース 1 が 5 名前後、コース 2 が 5 名弱となっています。毎学期約 50 名の学生（聴講生含む）が日本語を学んでいます。



日本文化入門コースにて

UNICert®コース以外では、春休みには、生け花、書道、折り紙、風呂敷、料理などの体験型授業を中心に、「日本文化入門」という集中講義を実施しています。成績を付ける関係から学生に発表を義務付けており、毎回日本に関する様々なテーマについての発表があります。また、授業時間数に余りがある時や夏休みに「発音クラス」「会話クラス」「Hilfsmittel（日本語を学ぶ上で必要な情報を集める）コース」、UNICert®修了生のため

の「中級クラス (Vertiefungskurs)」を設けています。

4. 日本語教師同士の交流

レーゲンスブルクでは大学以外に Volkshochschule (VHS 市民大学) やギムナジウムでも日本語教育が行われています。どちらも担当されている日本語教師の先生（お一人）とはメールの交換や、時間を見つけては情報交換としておしゃべりをしています。

また、ドイツには 3 つの日本語教師会（ドイツ語圏中等教育日本語教師会、ドイツ語圏大学日本語教育研究会、ドイツ市民大学日本語講師の会）があり、その中で私はドイツ語圏大学日本語教育研究会に所属しています。年に一度どこかの都市でシンポジウムがあり、教師同士の交流、情報交換、勉強会を兼ねて毎年行っています。教師会の主なメンバーは日本語学 (Japanologie) がある大学の先生方ですが、2009 年にケルンで行われたシンポジウムをきっかけに全学対象の日本語教育を担当している教師のためのメーリングリスト (ML) を作りました。全学対象の日本語教育を担当している先生方は私と同じように一人だけで授業を担当している人が多いので、独りよがりにならないよう様々な情報交換、意見交換を目的として ML を活用しています。

5. レーゲンスブルク独日協会について

レーゲンスブルク独日協会 (<http://www.djg-regensburg.de/>) は 2005 年に設立され、レーゲンスブルクにおいて日本や日本人への理解を深める、また日本人と交流するためにさまざまな催しを行っています。会員数は 2009 年度現在 130 名（日本人 23 名）のうち 4 割が学生（日本人含む）で独日協会の中でも若いメンバーが多いのが特徴です。私も 2006 年にこちらに来てすぐに役員になり、2010 年からは副会長として、イベントのお手伝いをしています。私が主にかかわっているのは Studenten-Stammtisch（学生交流会）、「映画の夕べ」（Filmabend）、新年会や忘年会などです。Stammtisch は毎週木曜夜に街中にあるレストランで行われ、レーゲンスブルク大学で日本語を学ぶ学生を中心に日本人留学生やその他日本に興味のあるドイツ人とおしゃべりをして楽しんでいます。「映画の夕べ」は大学の授業期間中にほぼ月に一度、日本映画、または日本関連の映画を上映しています。最近はまだドイツで DVD 化されていない邦画を探し出して、会長と共に上映する映画を決めています。また新年会、忘年会では一年の催しを振り返り、各自が持ち寄った食べ物をビュッフェ形式で楽しんでいます。

ほかには日本に関する講演や音楽を中心に伝統文化の紹介などがなされています。ウェブサイト上にも様々な情報が載せられており、ドイツにある独日協会の中でもかなりアクティブな独日協会として知られています。

6. その他の活動

ミュンヘン総領事との交流が私が就任する以前から行われており、現小菅総領事、前丸山総領事ともに何度も大学まで足を運んでいただき、独日協会との共催でご講演をお願いしたり、学生たちを総領事公邸までご招待いただいたりしています。

また、2009 年は独日協会とは別にさまざまな団体から声がかかり、イベントのお手伝いをしました。デパートでの「桜祭り」では書道や折り紙、生け花や日本語入門などを担当しました。また「国際子供祭り」や居合道のイベントでは盆踊りをほかの日本人や日本人留学生と共に披露しました。ここレーゲンスブルクはそれほど大きい町ではないこともあり、日本人というだけで声がかかるので、そこが日本、または他の大きな都市とは違うと実感しています。



総領事公邸にて

7. 今後について

最初の数学期は授業準備や雑用にたくさん時間を取られ、まさに「自転車操業」という感じでしたが、今は大学の仕組みなどが分かってきたこともあり、少し余裕が出てきました。今後とも現状に甘んじることなく、新しいことにもチャレンジし、さらにいい授業ができるように努力したいと思っています。

(2010 年 3 月 14 日作成)